

# 千刈狸の呟き

震災から一年が過ぎた。夢中で駆け抜けてきて、またもや、がんばれ!!である。

昨年からずっと、猛暑、節電、豪雨、豪雪、そしてインフルエンザの猛襲が続き、ホッとする感覚を忘れてしまいそうになっている。

そんな時身近なある物の「存在」に気づいた。外来や健診で当然のように人々の手から手に渡りながら歴史を刻み、愛され、時には無くされ、失われながら、まるで分身のような物。

母子健康手帳（以下、母子手帳）は、60年以上前に世界に先駆けて日本独自に作られ進化してきた。現在では、日本の母子手帳に出会った海外の医師や保健関連のスタッフなどを通じて20カ国以上の国で母子手帳が誕生している。特に、母子の健康や保健について深刻な問題を抱えている国々でさらに連携して、識字率によらない普及を進めるため、よりわかり易い母子手帳の開発を目指しているという。

母子手帳は妊娠、出産、子どもの健康記録、予防接種状況などの一貫した記録として、保健・医療者にとっては大変有用である一方、究極の個人情報であるということから西欧では、この形で普及してこなかったという見方もあるし、日本の戦後の社会状況が大きく係わっているともいわれている。

今年は日本の母子手帳改正の年で、成長曲線の改訂や健康教育のページ・自由記述欄を増やす事などが、盛り込まれている。一方、インターネットや携帯電話、そしてスマートフォンの爆発的な普及がもたらしている母子手帳への影響についても危機管理が必要な時代になった。

オンライン連携母子手帳、ケータイ母子手帳などなど、母子手帳という冊子の世界がどんどん膨張していつている。「初めて歯が生えました」という様な母親などの直筆を見る事は、母子手帳を介して行う大切な仕事の一部でもあるし場合によっては、家族や母子が抱える重要な問題について気づききっかけにもなる。

ところが、オンライン母子手帳という世界だと、妊娠・出産・育児などの毎日の様子を母親達は、膨大な写真・動画つきのブログという手法で毎日

## ～がんばれ!! 母子手帳～

月影の狸

書き込んでいく。同時に日本中、いや世界中の仲間たちと繋がっていく。このウチは要受診？ポリオの予防接種どうする？産の野菜は大丈夫？仲間では様々なネット上でのやりとりが行われ、物事によっては大きな社会現象と呼ばれる状況も産み出している。

母親の母子手帳への記載は減る。必要事項は担当者が記入するので、シンプルになる。こうなってくるとカード化してもいいんじゃないかとなるかもしれない。コンビニでも交付とか...

ようやく、現行母子手帳の存在感の話になる。インターネットの世界はよくわからない世代がまだ多数であるという思い込みによるものでもあるが、母子手帳の長所をあげてみよう。

実績があり手軽である。「母子手帳をみせてください」と言って拒否されたことはない。

なつかしい諸先輩の健診・予防接種の足跡に触れることができる。直筆があつたりするとつい拝みたくなる。

昔の自分に逢える。健診の結果の欄に「順調です」などの自らの文字を見つけると疲れている今の自分が励まされる。

生活の匂いがする。落書きがあつたり、醤油のシミがついていたり、お守りや多数の診察券がはさまっていたりする。

思春期の子どもの事で苦悩する母親と話をする時など、一緒に見て親の思いを共感できるページがある。

いつかは子どもが見る。ちなみに、アメリカのユタ州の母子手帳はアルバムのような作りで「Keepsake」という名前である。(宝物、贈り物という意味で一升瓶のキープの事ではない)充電がいらぬ。

母子手帳の作成・交付は各自治体にまかされている。独自のビジョンで母子保健・育児支援などの体制を創り上げ、実践していくためのツールにもなりうるのである。この国の復興と子ども達の未来のために母子手帳の力を活用する事が、日本人なら出来ると思う。